令和7年度 事業報告書

1. 組織概要と基本方針
令和7年度は、当協会にとって「新競技種目への移行」と「持続可能な組織運営への転換」という、二つの大きな課題に取り組んだ一年となりました。競技環境の変化に柔軟に対応しつつ、中長期的な組織の自律的な成長を目指した活動を推進いたしました。

2. 主な事業実績
2.1 国際大会の主催および強化事業
2025年アジア選手権大会の開催: 2025年11月、当協会が大会組織委員会となり、アジア選手権大会を主催いたしました。国際大会の国内開催を通じて競技の普及・振興を図るとともに、運営ノウハウの蓄積を実現いたしました。

強化拠点の活用: リソルの森を強化拠点として、オブスタクル強化合宿を計7回実施いたしました。

国際交流と選手育成: 国際大会派遣や日韓交流事業を積極的に推進し、次世代の選手層の拡大と競技力向上を図りました。

審判・指導者育成：第65回全日本選手権に合わせて国際審判講習会を実施し、国内の審判員層の強化に努めました。去年から復権したJSPOの公認指導員の認定講習会も開催し、合計7名が合格となりました。

2.2 組織・基盤整備
事務局DXの推進: 事務局業務の効率化を目的として、新決済システム「会費ペイ」を導入いたしました。

2.3 広報・ブランディング
ブランド刷新: 競技種目変更を機に、梅の水引をモチーフとした新しい協会ロゴを策定し、協会ブランドの視覚的な統一と認知度向上を図りました。
年明け1月から月刊のメルマガ配信を開始し、会員のエンゲージメント向上を図っています。

2.4マーケティング
大口の助成金終了以降、財政基盤の再構築に向け、ヘクセルワークス株式会社、ミズノスポーツ振興財団、JOCジョイントマーケティングなど既存の収益維持に向けた活動に加え、株式会社ブルジャンプ、明海グループ株式会社など、あらたなパートナーからの協賛金や寄附を獲得し、現在もほか数社と折衝を続けています。

3. 総括
本年度は競技種目の転換に加え、アジア選手権大会という難題がありましたが、関係各位みなさまご協力により一定の成功を含め、各事業を計画通り完遂することができました。次年度以降も、今期の基盤整備の成果を活かし、さらなる発展を目指して邁進いたします。